



■ H22(2010)年6月25日

～洪水被害を未然に防止するために～

水防工法の実技演習を実施しました！

【実施日】平成22年6月23日（水）

今年も台風やゲリラ豪雨のシーズンを向かえるにあたり、水防に対する意識を高め、万全の体制で洪水にそなえるため、6月23日（水）鶴見区駒岡の鶴見川河川敷において「平成22年度京浜河川事務所水防実技演習」を実施しました。

この実習では、各種水防工法の習得を図ることを目的とし、京浜河川事務所の職員と、防災エキスパート、協力会社など総勢76名が参加しました。



開会式の様子



月ノ輪工法の実習



むしろ張りの実習



照明車操作の実習

【詳細は文末をご覧ください】

【洪水被害を未然に防止するために】

『水防工法の実技演習を実施』しました！

平成22年6月23日の水曜日 鶴見区駒岡の鶴見川河川敷において「平成22年度京浜河川事務所水防実技演習」を実施しました。

会場は今年度鶴見川の防災拠点として整備された駒岡防災拠点を使用しています。



今年も台風やゲリラ豪雨のシーズンに向かえるにあたり、水防に対する意識を高め、万全の体制で洪水にそなえるため、各種水防工法の習得を図ることを目的とし、京浜河川事務所の職員と、防災エキスパート、協力会社など総勢76名により各種水防工法を実施しました。

【開会式】



縄結び

蓆（むしろ）張り工法など、パイプ、竹、土のうなどをしっかり結ぶために必要な技術です。



積み土のう工法

増水が早く、水が堤防を越えそうな場合、堤防天端の表のり肩から0.5～1.0mくらい後退した所へ必要な高さに土のうを積みあげ、越水を防ぎます。土のうの継ぎ目には土をつめて、十分に踏み固めます。



月の輪工法

土のうを積んで河川水位と漏水口との水位差を縮めて水の圧力を弱め、漏水口が拡大するのを防ぎ、堤防の決壊を未然に防ぐために有効な工法です。



蓆張り（むしろはり）工法

表蓆（むしろ）張り工（防水シート使用）は、堤防のり面が欠け込んだ場合や、数カ所より浸透し、吸い込み口が判然としない場合に行うもので、力竹をシートでくるみ、重し土のうを数箇所結束し、留め杭につなぐもので、堤防表面の崩れることを防いだり、吸い込み口をふさぎ透水を防ぐのに有効な工法です。



ポンプ車・照明車操作



平成21年6月22日 平成21年度水防演習 (川崎市臨港消防署と京浜河川事務所で合同開催しました。)



場所：大師河原防災ステーション

実際に水防工法を行った例

多摩川 二子玉川付近

(平成19年9月台風9号)



土のうの2段目まで水位が上昇

鶴見川



漏水が発見されたので水防団が土のうを積んだ(月の輪工法)

防災エキスパート

防災エキスパートとは 防災エキスパート制度は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に平成8年1月16日に発足したものです。

地震・風水害等の大規模災害発生時または発生の恐れがある場合に、公共土木施設の被災状況の情報収集や地域の災害対策活動にボランティアとして協力し、より迅速かつ効果的な復旧活動の実施への様々な支援を目的としています。

防災エキスパートとは、公共土木施設等の整備・管理等についての専門的知識を持ち、ボランティアとして自主的かつ無報酬で支援活動に参加することを希望し、予め防災エキスパート制度に登録した人です。



防災エキスパートの活動

1. 平常時の活動 いざという時に備えて、地震防災訓練、水防演習等の実働訓練に参加する他、防災に関する意識の高揚を図るため各種の講演会、シンポジウム等に参加します。

2. 災害時の活動

1)被災状況の情報収集 防災エキスパートは、関東地方において地震や風水害などの大規模災害が発生した際に、公共機関所管の河川・道路構造物等を対象に、被災状況の情報収集を行い、関係機関に通報します。

2)支援活動 防災エキスパートは、公共機関の災害対策本部等で次のような支援活動を行います。

活動内容 ・関係機関への情報連絡及び情報の記録・整理の補助

・災害対策本部、支部等における支援活動

・自治体への支援活動 ◇新潟中越地震(2004.10.23)発生後には旧山古志村へ赴き、約2ヶ月間にわたって支援活動を実施しました。

※社団法人 関東建設弘済会ホームページより